

# パトロンタッチ

## 地域医療連携の実現

### ～骨粗鬆症リエゾンナースの役割とその活動～

寝たきり原因の上位に骨折があげられ、一度骨折すると再骨折を繰り返す懸念が高い中、骨折入院した病棟と、近隣医療機関との連携も維持しながら、二次予防として「骨粗鬆症地域連携手帳」等を活用するなど、情報の共有を図り、再骨折しないよう継続フォローしている看護外来をつなぐ看護職同士の連携を紹介します。



聖隷佐倉市民病院  
整形外科病棟  
看護課長

宮崎 木の実

当院では、2014年11月に骨粗鬆症リエゾンサービス委員会を発足しました。現在は、10職種20名のメンバーで活動しています。委員会のおもな活動は、「初回の骨折と再骨折を予防するための支援をすること」と、「骨折治療後は骨粗鬆症の治療を継続するための支援をすること」です。

今回は、骨粗鬆症治療を継続するための関わりについてお伝えします。骨折の予防には初回の骨折を防ぐ1次予防と、再骨折を防ぐ2次予防があります。骨折の治療が終了した患者さんへの再骨折を予防するための指導が2次骨折予防となります。骨折予防で大切なのは、骨粗鬆症の治療薬の継続と生活指導です。1次予防の治療薬は、おもに内服ですが2次予防の治療薬は、注射薬が中心となります。注射薬の投与間隔は、薬により異なるため患者さん自身が選択できるようにするための情報提供や生活スタイルに合わせた指導を行っています。骨粗鬆症の治療は患者さん自身に困る症状はありませんが、治療を中断せず継続してもらうことが大切です。そのため骨粗鬆症地域連携クリニカルパスと骨粗鬆症地域連携手帳を活用し2年間の継続治療が必要となります。

#### 〈今回の事例〉

72歳 男性。ひだり大腿骨近位部骨折で入院、人工骨頭置換術を施行しました。69歳より、脳の疾患のため歩行困難となり、室内は杖を使用し歩行、外出は車椅子を使用している方でした。治療を継続するためには、家族の協力が必要なため、一緒に暮らしている妻へ、退院指導を行いました。

退院後に、注射と生活指導のために骨粗鬆症地域連携外来と看護外来を受診していただくこと、骨粗鬆症地域連携手帳を用いて、転倒予防のための環境整備、食事と運動、日光浴についてや治療継続の重要性について説明しました。また入院時の検査データや既往歴などを手帳に記入し手帳の使い方についても伝えています。

指導の時「うちの人は車椅子なのに骨折を予防する必要があるの?」「通院を忘れちゃいそう」という訴えが妻よりありました。そのため、通院の時間や曜日、他科受診、在宅サービスの調整をしました。妻が1人で、受診のサポートをするため入院中の経過や家族背景、指導内容については外来受診の一週間前までに外来のリエゾンナースと病棟のリエゾンナースが情報共有しました。





聖隷佐倉市民病院  
整形外科外来  
看護係長

**木村 弘美**



骨粗鬆症リエゾンサービスの活動として、2015年8月に、医師による骨粗鬆症地域連携外来と骨粗鬆症看護外来を同時に開設しました。看護外来は、学会認定を取得している外来看護師1名と病棟看護師2名により、骨粗鬆症による骨折予防と治療継続の支援をおこなっています。

看護外来では、骨粗鬆症地域連携パス、骨粗鬆症地域連携手帳を使用し、骨粗鬆症の継続治療の必要性、内服から副作用について、食事や運動についての生活支援をおこなっています。また、退院3ヵ月後に受診日の確認のための電話や予約日に来院されなかった患者さんへも連絡するなど定期的に受診するよう支援しています。

〈今回の事例〉

Aさんへは、退院3ヵ月後の受診日についての確認を予定通り電話しました。「忘れずに病院に行きます」と話されていました。今回、退院後2回目となる手術1年後の骨粗鬆症地域連携外来と骨粗鬆症看護外来の予約日には、妻に車椅子を押され来院されました。外来には、「骨粗鬆症の大事な注射がある」という意識を持ち受診をされた印象を受けました。

骨粗鬆症看護外来では、医師の診察後、骨粗鬆症看護外来にて骨粗鬆症地域連携クリニカルパス、骨粗鬆症地域連携手帳を使用し、内服継続、副作用の有無、食事や運動、転倒の有無を確認し、デノスマブの注射をおこないました。骨密度も改善し、自宅では、1年間転倒することなく週2回のデイケアを活用し、病棟で良いと言われていた食事をとりいれ、移動は車椅子での外出、リハビリをおこなっていると笑顔で話されていました。継続受診のため、ご家族の予定を含めた検査日や診察の調整を行うことができるよう、家族の負担がないことを確認し、次の受診日の予約をしました。

このような関わりが持てるのは、入院中の患者さんの経過を知っている病棟看護師と連携し、パスや手帳の活用で患者さんの情報共有が図れているからだと思います。そして、また6ヵ月後に笑顔で、外来で会えることを楽しみに、外来→病棟→外来とつながっていることを実感しています。